

第1研究課題 第1A分科会

「教育課程に関する課題」

研究主題 「特色ある学校づくりの推進と教頭の関わり」

—地域とともにある学校づくりを通して—

内子町立内子中学校 城戸玲順

1 研究の概要

内子町は、愛媛県中央部の山間地域に位置し、小学校7校、中学校4校の計11校が存在する。それぞれ、山間部を流れる小田川流域一帯にあり、稲作・果樹等を中心とする農業や林業が盛んな山間・田園地域、蠟搾り等の伝統的な産業により発展してきた商業地域が存在する。近年、少子化により児童・生徒数が減少し、地域内のつながりも希薄になる状況の中、地域を活性化させたいという願いも強く、学校への期待も大きい。

このような中、町内の学校は、令和元年度より4年の期間を経て、各小・中学校を、中学校区（小田、五十崎、大瀬、内子）を基本とした4つの地域に分け、順次地域ごとに学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとしての歩みを始めている。本校を含む内子中学校区域は、令和4年度の設置を目指し、今年度準備期間に入っている。

本研究において、今までの3つの中学校区域の取組・実践を整理する中で、そのよさを学びながら、本校における特色ある学校づくりのための実践をどのように進めるか、また、教頭としていかに関わっていくかを明らかにしたい。中でも、教育課程に関する課題を中心に上げ、地域とともにある学校づくりとはどのようなものか、地域の特色を生かした学びの場を設定するにはどうすればよいかについて、考察していきたい。

2 研究の内容

実践内容	教頭としての関わり
(1) 地域の素材・人材を生かしたふるさと学習の展開（何を学ぶか） ア 地域の思いと学習活動との融合 イ 地域の素材・人材を生かした学習	○ 地域の課題も視野に入れた取組 ○ 素材・人材発掘の方向性の明確化
(2) 家庭・地域とのつながりを大切にした組織づくり（誰が関わるのか） ア 地域コーディネーターの役割 イ 学校運営協議会と各部会の設置	○ 思いや考えを伝え合う「熟議」の場の設定 ○ グループの構築と役割の明確化
(3) 地域とともに進める教育活動の展開（いつ行うのか） ア 各地域行事との融合 イ 日々の取組の工夫	○ 既存の取組を生かした実践 ○ 日々できることにおけるアイデアの創出
(4) つながりの視点を生かして（どのように進めるのか） ア ICT機器の活用による情報発信 イ 広報紙の活用	○ 持続的な情報発信の方法の構築 ○ 町内における情報交換の場の活用

3 教頭としての今後の課題

- (1) 保護者・地域と学校をつながりを持続・発展させるとともに、教職員の組織力を高めるためには、教頭としてどのように取り組めばよいか。
- (2) 実践と並行しながら、業務負担の軽減化をどのように進めるか。

1 はじめに

本校は、愛媛県中央部の山間地域にあり、観光客が多数訪れる古い町並保存地区の一面に位置する学校である。校区は、山間部を流れる小田川流域一帯にあり、果樹等を中心とする農業や林業が盛んな山間地域と、蠟搾り等の伝統的な産業により発展してきた平野部の商業地域が存在する。少子高齢化の影響は大きく、人や地域のつながりを生み出す取組の必要性がある。そんな中、地域を活性化させようとする気運は高く、各地域に存在している学校への期待も大きい。

現在、内子町には4つの中学校区（小田、五十崎、大瀬、内子）があり、令和元年度より4年の期間を経て、各中学校区域の小・中学校が、順次、学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとしての歩みを始めている。内子中学校区域は、令和4年度の設置を目指し、今年度準備期間に入っている。

本研究において、今までの3つの中学校区域の取組・実践を整理する中で、そのよさを学びながら、本校における特色あるコミュニティ・スクールとしての取組をどのように進めるか、また、教頭としていかに関わっていくかを明らかにしていきたいと思う。中でも、教育課程に関する課題を中心に上げ、地域とともにある学校づくりとはどのようなものか、地域の特色を生かした学びの場を設定するにはどうすればよいか、考察していきたい。よって、本研究主題を『「特色ある学校づくりの推進と教頭の関わり」—地域とともにある学校づくりを通して—』とした。

2 研究の内容

(1) 地域の素材・人材を生かしたふるさと学習の展開（何を学ぶか）

まず、学習内容・素材について、つまり、「何を学ぶか」について考えてみたい。

小田地域において、地域出身の画家を講師として招き、「おだのふれあい講演会」を実施した。将来、地域を支えていく人材としての子どもたちに、今大人たちが何を伝えるか。講演を通して見えてきたことは、子どもたちにとっての生きた学びとは、大人自身が、それぞれの活動への思いや自分自身の生き方を含めた内容を、情熱を持って語ることの大切さである。何よりもそういった「語り」を重要視することがポイントであることが明らかになった。

五十崎地域においては、「あいさつがよくできるのでそのよさを続けてほしい」「地域の豊かな自然を愛してほしい」といった願いを基にした、「目指したい児童・生徒像」を決めている。そして、生活科や総合的な学習の時間における「ふるさと学習」を展開した。地域の伝統産業である「大洲和紙」の工場見学や、地域の一大行事となる大凧合戦への参加（伝統からの学び）、小田川の水生物調査（自然からの学び）、水道施設見学（暮らしを支える取組からの学び）などを行った。身近なテーマで学習することを通して、地域を大切にし、地域を活性化させるための方法についてまで意識が高められている。

大瀬地域においては、職場体験学習を生かした取組が展開されている。地元農家の協力を得ながら果樹栽培について学んだり、子どもたちが町内の職場、企業や施設等から体験先を選択して学習したりする機会を作っている。

また、どの地域においても人権をテーマとした催し物が継続的に行われており、特に大瀬地域の「人権まつり」は、地域が一体となった実践として長年培われてきた実績がある。このような、「人を大切にする」実践が、ふるさとを愛し、地域を大切にする人材を育成することに大きく貢献している。

本校が存在している内子地域では、伝統産業の継承者や保存・紹介に尽力されている方、また、積極的に様々なアイデアを基にした商業・農業・林業の活性化を図っている方がいる。総合的な学習の時間においては、「蠟搾り体験学習」等の「ふるさと学習」を展開している素地もある。学校運営協議会において、地域の素材や人材を生かしながら、子どもたちに何を学ばせたいのか、しっかり話し合い、現在行っている学習を生かしながら、教育課程に位置



図1 五十崎水生生物学習

付けていくことができると考えている。その留意点として、まず、地域の素材や人材を発掘する方向性を明らかにすることである。何のためにこの学習をするのか、今、学校として何が必要なのかを把握した上で、全体の共通理解を図ることが必要となる。学習のねらいや、育てたい児童・生徒像を明確にする手立てを講じることが大切になる。

また、課題を克服する取組の一つとして加えたいのが、「防災教育」である。近年における自然災害等の状況は、地域にとって最も大きな課題として考えられており、取組を推進していく必要に迫られている。地域の課題を共に考えていきながら、子どもたちの主体的な学びや実践を引き出す内容を見つけ出したい。

(2) 家庭・地域とのつながりを大切にした組織づくり（誰が関わるのか）

次に、組織づくり（「誰が関わるのか」）について、その方法を探ってみよう。

小田地域では、2つの部会（「小田の学び応援部会」「小田のふれあい応援部会」）を立ち上げた。「学び応援部会」では、ふるさと学習を進め、ふるさとを好きになり、将来小田に戻ってくる児童・生徒を育てたいという思いで、学習内容を設定することになった。そのために、地域の思いを語る人材を把握するために、『ふるさと学習を応援する「人材バンク」』を作成していくことになった。また、「ふれあい応援部会」では、学校と地域をつなぐために、地域で行っている既存の内容や組織をうまく取り込み、さらに、高校生とのつながりを持つことが大切であると考えた。小田地域は既に目的に合致した活動を行ってきているため、今までの積み重ねを見直し、整理・



図2 小田学び部会の取組

統合していくよい機会と捉え、あせらず、無理をせず、まずは一つの成果から進めていく視点を大切にするようにした。また、持続性のある活動にするためには、委員の任期について柔軟に考え、可能な範囲で2年以上の継続が望ましいのではないかという意見で一致した。

五十崎地域においては、各小・中学校に一人ずつ地域コーディネーターを配置し、学校と地域をつなぐ役割を担っている。また、それぞれに3つの部会（「環境」「ふるさと」「見守り」）を立ち上げ、各学校と部会が連携することにより、運営を強化している。特に、地域コーディネーターの役割は大きく、複数配置し情報交換の場を持つことが、実践の推進力となっている。また、地域全家庭へボランティアの募集をし、人材バンクに登録している。

大瀬地域においては、学習の場におけるゲストティーチャーやボランティア等の人材を募っている。地元地域をよく把握している方を地域コーディネーターとして迎え、地域の人材を発掘していただいている。協力していただける方は「学校サポーター」として人材バンクに登録している。

ここにおける教頭としての留意点は、関わる人たちの思いを出し合い、目的の共有を図ることである。そのために、お互いの考えを伝え合う「熟議」の場を設定することが重要である。学校としての願いや要望も明確に伝え、実践内容がねらいとともに明瞭に示されることが大切である。その後、それぞれの役割を明確にし、少人数のグループに分け、中心メンバーの決定と役割分担を行っていくことが、活動を推進する上で、大きな意味を持つことにも留意したい。

(3) 地域とともに進める教育活動の展開（いつ行うのか）

3つ目の視点として、「いつ行うのか」について考えていきたい。

小田地域においては、「できることから少しずつ」をテーマに掲げ、学校と地域がつながるきっかけとして、「学校行事に行ってみる」「子どもたちの登下校を見守る」「奉仕作業に参加してみる」という3つの視点から、学校とのふれあいや協力を呼び掛けている。

五十崎地域においては、各地域行事との融合、ゲストティーチャー等に関わる授業の設定などがある。また、日頃からの関わりとして、わくわく図書館づくり、読み聞かせ、エコ活動の実践などを工夫することにより、気軽に参加できる手立てを講じている。

このように、様々な場や機会があれば、教育活動が展開できるということが見えてくる。教育課程を編成する際に、ねらいを達成するためには、国語科における表現の学びや理科における仕組みの学びなどが融合される場合も考えられる。教科横断的な視点で学びをつなぐことも可能となってくる。

また、関わりを持つ時間や場について、機会や方法は様々ある。過去の事例を見ると、柔軟な発想や工夫で、無理なく、持続的に実践していくことが可能となっている。簡単に言えば、「いつでもできる」のである。それを仕掛けるアイデアを生み出すためには、地域コーディネーターとの連携や、様々な立場からの意見集約も必要となる。他地域の実践から学ぶ研修の機会も大切にしたい。また、一つの取組を見直し、改善する機会も設定する必要がある。次々とアイデアがわき、実践が喜びにつながっているかを常に問いたい。

④ つながりの視点を生かして（どのように進めるのか）

最後に、「どのように進めるか」について、情報共有、情報発信の場の工夫にしばって考えてみたい。日々の生活の中においても情報共有するためには、やはり情報発信の工夫が必要となる。

小田地域においては、フェイスブック「コミスク小田」を活用している。五十崎地域においては、自治センターにコミュニティ・スクールのコーナーを設置している。大瀬地域においては、「大瀬自治センター広報」の中に「コミスクだより」というコーナーがあり、全家庭に配付している。地域の方は高齢者も多く、やはり紙媒体が大切な情報源になっている。このように、取組を紹介することで、地域の方との情報共有を生み出すことが可能となっている。特に、地域のよさ、地域の人材のすばらしさを広めることにつながる。

また、今後、4つの地域が連携することにより、それぞれの取組や実践からの学びや、新たなつながりを生み出す機会も期待できる。大げさに言えば、コミュニティ・スクールの融合による「内子コミュニティ・スクールズ」の創設である。これらを支える立場として、町内の小・中学校の教頭が連携し、情報を交換する場を設定することにより、様々な仕掛けのアイデアが生み出されるのではないかと考えている。今後の展開が楽しみである。

夏休みも後半に入ります。子どもたちには、思い切った挑戦はできなくても、旅行事などの地域や家庭の年中行事に接しながら、そのDNAを受け継いでいってくださることを期待しています。（コロナ禍で通常の年中行事ができないかもしれません。）※7月の区長便で、各戸に「コミスクサポーター登録用紙」を配布しています。可能な限りのご協力をお願いします。



〔文責：コミスクコーディネーター〕

7月5日に、大瀬小の3年生が尾形農園（和田地区）を訪れました。また、川登の笹流しや大瀬の館等に関する学習にご協力をいただいた方もいます。現地で学習や地域に関する授業等で、子どもたちの学びがより充実することを念じています。

図3 大瀬コミスクだより

3 研究の成果と課題

今回、内子町におけるコミュニティ・スクールの実践から学ぶ視点で、取組を整理してみたが、それぞれの地域には、魅力ある学びの素材や人材がたくさん存在していることの再確認になった。特色ある学校を推進するためには、何よりも地域に根ざした学びが必要である。その学びは多様にあることが明らかになった。

教育課程を編成していく上で、一つ一つの実践や学びがどのようなつながり、子どもたちの成長を促していくのか、網羅していくことの難しさがあることは事実である。しかし、実践を重ねながら、少しずつ明らかにしていったのでよいのではないだろうか。気づきや発見もありながら、組織力を高めていきたい。



図4 内子蠟搾り体験

4 おわりに

最後に、内子町の「チーム教頭」のメンバーの姿から学んだことをまとめたい。「説明力（納得を得る）」「豊富なアイデア（やる気が出る）」「ユーモア（発想が広がる）」「包容力（実践が深まる）」「人が好き（関わる喜び・生きる喜びの実感）」などである。この機会を通して、私自身も成長していきたいと思う。